るで。でも、家で作んのが一番おいしいな」

焼く時に上に豚肉を乗せる正統派やなあ」

イラスト・中井亜佐子（フリーライター）

企業と福祉事業所 商談24件成立 Ⅴ

道社協 仲介事業 滑り出し順調

障害者が働く福祉事業所に民間企業が仕事を発注できるよう仲介する、道の「マッチング事業」が順調な滑り出しだ。昨年10月以降、道内の福祉事業所15カ所と企業17社との間で、計24件の商談が成立。障害者の賃金アップにつながるケースも出ている。（中原洋之輔）

岩見沢の施設 通販業者に黒豆茶納入

通信販売業「感動いちば」（札幌市中央区）は、社会福祉法人クピド・フェア（岩見沢市）に「黒豆茶」の生産を依頼している。

両者を結びつけたのが、同事業を請け負う道社会福祉協議会のコーディネーター大泉浩一さん（39）だ。

同12月に、同法人がコーヒー豆を自家焙煎（ばいせん）して販売していることを、感動いちばの吉原亘専務に紹介。「道産黒豆を焙煎したお茶は消費者にアピールするはず」という吉原さんと、「設備を有効活用したい」との同法人の思惑が一致。

黒豆茶の袋詰め作業を行う担当者＝岩見沢市のクピド・フェアの作業場

商品の魅力アップにも力

今年4月以降、焙煎作業の空きを利用して、1カ月に180㌘入りの黒豆茶を約300袋生産している。

「まだ始まったばかりだが、1カ月に4万円前後の収入になっている」と同法人で事業を担当する豊若友紀生さん（43）。3人の障害者が作業しており、1人当たり月額で数百円ほど賃金をアップしたという。

同社は他の事業所にパンも発注しており、吉原専務は「良い商品を作っている福祉事業所はほかにもある。ビジネスの可能性は十分ある」と評価は高い。

同事業では、福祉商品の魅力アップにも取り組んでいる。

「ずっとおしゃれになったと思う」。10月下旬、廃食用油からせっけんを作っているNPO法人「Re～らぶ」（札幌市白石区）の東藤れいこ理事長は、満足そうに試作の包装紙を手に取った。

障害者約30人が働く同法人が、せっけん作りを始めたのは9年前。包装紙は障害者と職員による自前のデザインで、コピー機でコピーして作っていた。

せっけんは今年9月までの半年間に約1万個を生産。1個100～200円で販売しており、この間の売り上げは約150万円で、他の下請け仕事と合わせ、障害者の賃金は月額1万5千円ほどだった。

「賃金を上げたいが、この包装デザインでは店に並べてもらえない」という東藤さんに大泉さんが紹介したのが、札幌を拠点にグラフィックデザインの分野で活躍するアートディレクター倉橋寛之さん（37）だった。

「印刷会社に大量発注すれば、自前でコピーするのと変わらない価格でできます」とデザインした倉橋さん。東藤さんは包装の一新を機に、商品の価格アップを考えている。

新しい包装紙について話し合う倉橋さん（右）と東藤理事長（左）＝札幌の「Re～らぶ」事務室

同事業では、企業側や福祉事業所の情報を専用ホームページなどを通じて集約し、それを個別に「マッチング」していく。道は今年10月からコーディネーターを6人増やし、7人態勢に強化した。大泉さんは「少しの工夫で収益アップのチャンスが生まれる。それが働く障害者の支えにつながるはずだ」と指摘している。

同事業の問い合わせは、道社会福祉協議会☎011・241・3982へ。

■日本尊厳死協会北海道支部「おしゃべりの会」

17日午前10時、札幌エルプラザ（札幌市北区北8西3）。尊厳死について自由に話し合い、会員が質問や疑問点に答える。参加無料。問い合わせは同支部☎011・736・0290へ。

きょ

チンゲ
マーボ
（1人分1

チンゲンサ
◇材料（2
パプリカ（赤
キクラゲ2グ
1かけ、豆板
さじ1
◇作り方
①チンゲン
縦に4～6等
つに切る。パ
り。キクラゲ